

# チャットで服薬状況を自動確認

## 三菱電機ITソリューションズ 「調剤Melphin/DUO」

三菱電機ITソリューションズは、過去35年以上にわたり薬局向けシステムの開発や販売を手がけてきた。同社が提供する保険薬局向けシステム「調剤Melphin/DUO」シリーズは、処方箋受付から服薬指導まで保険薬局の業務を幅広くカバー。さらにオプションシステムの組み合わせによって、保険薬局に特化したセミセルフ型も可能なPOSシステムと連動する機能や、在庫管理・経営管理といった経営面までトータルに支援する機能を備えている。

昨今、多くの企業が業務効率化・生産性向上、価値創造やビジネスモデルの変革に向けてデジタルトランスフォーメーション(DX)への取り組みを行っている。保険薬局も例外ではなく、DX化の波が押し寄せてきている。今回の新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけにして一気にオンライン化が進んでいることが一例だ。患者

が自宅にいながらオンライン診療で医療機関を受診、電子処方箋が任意の薬局に送信され、オンライン服薬指導を受けるといった流れが当たり前になる時代がすぐそこまできている。

今回、同社の展示ブースでは「薬局トランスフォーメーション-DX化で目指す薬剤師・薬局の未来」をテーマに、急激な変化への対応を求められている薬剤師・薬局を支援する様々な機能を紹介する。

例えば、電子薬歴システム「Melhis」では、新たに開発した「服薬指導ガイド」(SY-POS2)により、患者特記・併用薬・処方内容・過去の薬歴といった情報をもとに、薬剤師が指導・確認すべき項目を自動的に抽出、提案する。提案内容は処方時期によっても変わり、初回処方では服用の仕方、2回目では副作用の有無の確認が提案されるという。指導後は画面上で服薬指導を

行った項目にチェックを付けるだけで自動的に薬歴が作成され、追加の情報があればキーボードから入力することも可能だ。

しっかりした服薬指導と薬歴作成ができた上で、業務を効率化することをコンセプトに製品化されており、電子薬歴作成業務が効率化されることで、対人業務への時間創出が実現され、かかりつけ薬剤師・薬局の役割発揮に寄与するという。

フォローアップ機能も充実している。継続フォロー対象患者に対してフォローアップ日程の自動作成が可能だ。さらに、昨年業務提携を発表したメドピアの「kakari」との連携により、「kakari」を利用している患者に自動的に服薬状況確認チャットを送信、患者からの回答を自動で薬歴に記録できるようにになり、薬剤師・薬局と患者の



円滑なコミュニケーションをサポートする。

そのほか、チェーン薬局向けに、在庫管理/経営支援/薬歴共有といったクラウド型本部システムでチェーン薬局の管理業務もサポートする。各店舗の処方箋入力を本部で代行する「入力センターシステム」で店舗の事務作業、事務要員の省力化も可能としている。

薬局・薬剤師への期待の高まりと共に薬局の業務領域は拡大の一途を辿っているが、同社は製品やサービスの提供を通して、薬局の変化をサポートしていく考えだ。

# 「zeroモード」搭載自動散薬秤量機

## ユヤマ「auto onedy-zero」

ユヤマは誰でも簡単に安全に操作ができる新機能「zeroモード」を搭載した鑑査システム一体型自動散薬秤量機「auto onedy-zero (オートワンディゼロ)」を新発売した。

厚生労働省の「患者のための薬局ビジョン」で提唱された対物業務から対人業務へのシフトという方針に合わせ、薬剤師の対人業務が増加しているが、処方箋への対応に含まれる対物業務も疎かにできない大切な業務。

その一つが神経を使う薬品の秤量。従来は薬剤師が薬匙と電子天秤を使って微妙な秤量調整を行うが、経験や技術が必要になってくる。

「auto onedy-zero」では、誰でも簡単に安全に操作ができる機能として開発された「zeroモード」を搭載しているため、業務経験に関係なく簡単な操作で

誰でも確かな秤量が自動で行える。まずレセコンから処方が発行されると、連動している散薬分包機の制御端末が受け取り、処方監査、承認を薬剤師が行うと、「auto onedy-zero」にデータが送られる。「auto onedy-zero」の画面で秤量対象の処方データを選択すると薬品名が表示されるため、対象の散薬カセットを本体に装着。秤量皿を天秤上に置き、風防カバーを閉めると自動的に秤量を開始する。風防カバーは秤量が終わるまでカバーが開かないようにロックがかかる安全設計になっている。

また、秤量皿にRFIDラベルが貼られているため分包機側の読み取り装置に照合すると分包機の未処理データから該当の処方データが展開。患者データの選択ミスを防げる仕組みだ。

散薬カセットの内容量は300cc。カセット自体にRFIDラベルが貼られているため、本体装着時に秤量対象薬品で合っているか確認できる。挿し間違っているとアラートが出て警告する。秤量はカセット装着を行ったフィーダー部で払い出し量を計測。さらに散薬鑑査システム一体型電子天秤「onedy-EX2」での実測値をもとに最終確認を行うため、確かな秤量値を担保している。

オプションとして、電子ペーパーを取り付けた秤量皿もあり、処方番号や薬品名を表示できるため、秤量後の薬品特定が可能。また、秤量撮影機能を備え、秤量結果のエビデンス用記録として活用できる。既に「onedy-EX2」を導入している場合でも、「auto onedy-zero」を装着することで自動秤量が可能となる。



誰にでも操作を安心して任せられることで、ますます重要になった薬剤師の対人業務の時間確保のツールとして期待される。

第55回日本薬剤師会学術大会付設薬科機器展示会では「auto onedy-zero」をはじめ、業務シフトに役立つ最新の調剤機器を展示する予定だ。

# 第55回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)



クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社  
代表取締役社長 木村 仁  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目1番5階  
電話 〇三(三四〇七)二〇一四番



日東メディック株式会社  
代表取締役社長 中井 龍  
〒939-2366 富山県富山市八尾町保内一丁目一  
電話 〇七六(四五五)三四五一



中北薬品株式会社  
代表取締役社長 中北 馨介  
〒460-8515 名古屋市中区丸の内三丁目一五(油伊ビル)  
電話 〇五二(九九七一)三六八一



岩城製薬株式会社  
代表取締役社長 西久保 吉行  
〒103-8434 中央区日本橋本町四丁目八十二  
電話 〇三(六六二六)六二五〇



帝國製薬株式会社  
代表取締役社長 藤岡 実佐子  
〒769-2695 香川県東かがわ市三本松五六七番地  
電話 〇八七九(二五)二二二二



久光製薬株式会社  
代表取締役社長 中富 一榮  
九州本社 〒810-0017 佐賀県鳥栖市田代大官町408番地  
東京本社 〒100-6330 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号



ゼリア新薬工業株式会社  
代表取締役社長 伊部 充弘  
〒103-8351 東京都中央区日本橋小舟町一〇一  
電話 〇三(三六六三)二三五二番(代表)



大塚製薬株式会社  
東京本部  
〒108-8242 東京都港区港南二丁目十六番四  
電話 〇三(六七七一)一四〇〇(代表)